

SNSが普及している現代社会で自分の信念
や価値観に基づく選択をすることの難しさ
について考える。

あなたの選択は本当に自分で良いと思って決めたことなのだろうか。
SNS時代において他者の意見は、自分の判断にどのような影響を与え
ているのか。

桐蔭横浜大学 現代教養学環

探究型入試 小論文テーマNo.1 教員授業資料

SNSで得られる情報には偏りがあります

- しかし、その選択や判断は必ずしも合理的、客観的ではなく、さらに、自分の信念に基づくものであるとは限りません。このような人間の判断や選択は、判断をする際の個人の認知的バイアスや**判断のもとになる情報の媒体の特徴やその内容**が影響しています。

このテーマではみなさんがSNSを利用して得る情報にはどのような特徴があるのかについて、重要なポイントについて説明をします。

※参考資料の日本心理学会が発行する心理学ワールドの「SNSの中で“つくられる真実”と“対立する正しさ”」の内容をかみ砕いて説明しています。

SNSを利用した情報検索の広がり

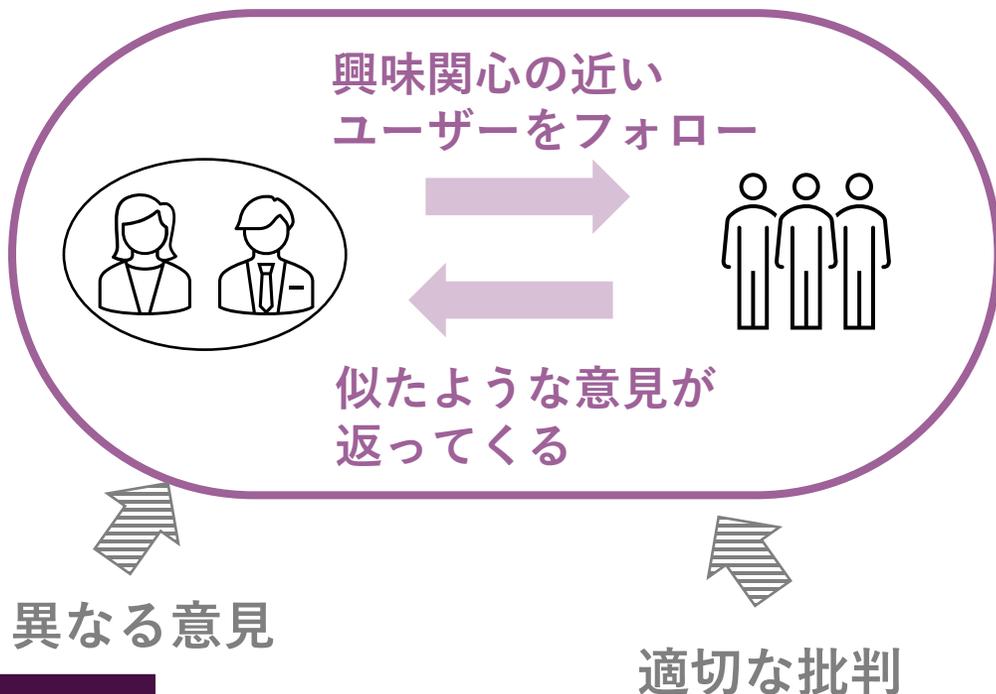
- 現代社会においてSNSを利用している人は非常に多く、ブラウザ（GoogleやYahoo!）などを利用した検索だけではなく、YouTubeやInstagram、TikTokなどを利用して情報を検索する人も多数います。

SNSの利用実態

- 2022年8月のMMD研究所（Mobile Marketing Data Labo./<https://mmdlabo.jp>）による調査
 - **SNSを最も利用するアプリ**と回答した人は2,231人中25.6%
 - SNSとコミュニケーションアプリを利用している人は63.2%
- そのなかで
 - Xユーザーは49.0%、Instagramユーザーは44.2%
 - 所有しているXのアカウント数は、
1アカウント：57.7%、2アカウント：21.0%、3アカウント以上：19.5%

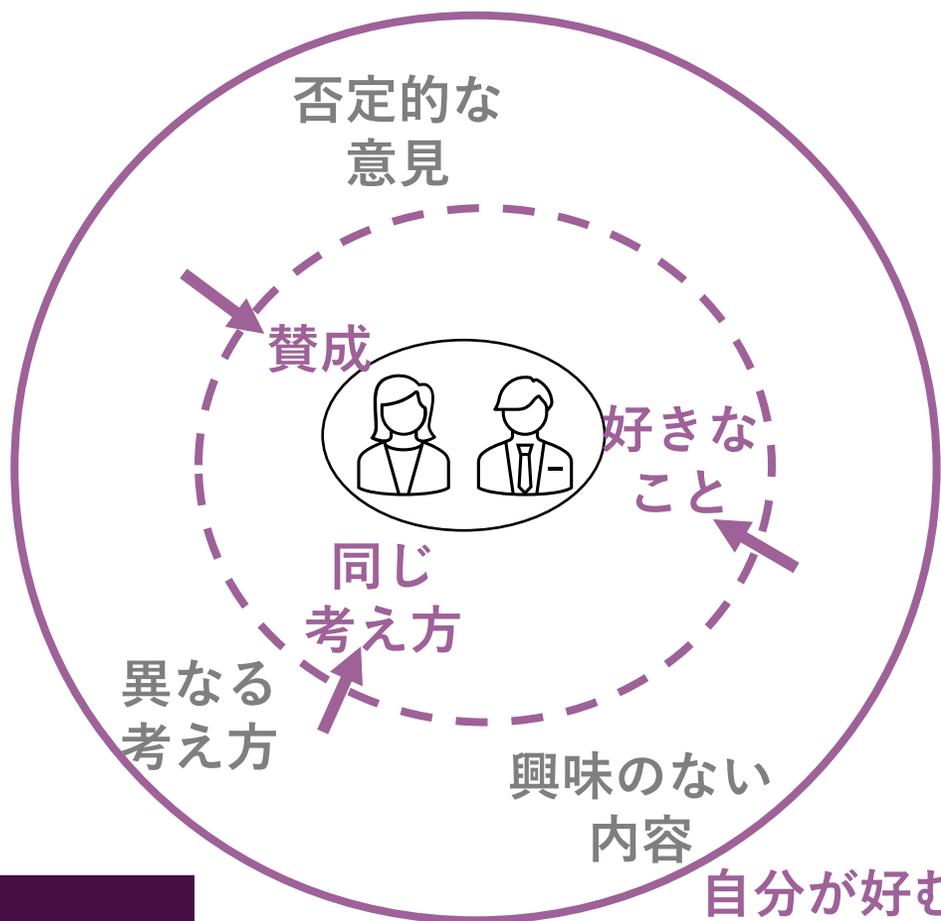
SNSのなかで偏った意見や考え方にさらされてしまう例 エコーチェンバー現象

同じような意見や考えが、
閉じたSNSコミュニティのなかで
増幅していく



- ソーシャルメディアを利用する際、**自分と似た興味関心をもつユーザーをフォローする結果**、意見をSNSで発信すると自分と似た意見が返ってくる現象。
- 偏った意見に繰り返し触れることで、**特定の意見を支持する**ようになり、優秀な人のあつまりであっても、**愚かな行動をとる**可能性もある。

SNSのなかで偏った意見や考え方にさらされてしまう例 フィルターバブル現象



- SNSが検索履歴やクリック履歴を分析し学習することで、**個人の意思とは関係なく、見たい（と判断された）情報**が優先的に表示され、利用者の観点に合わない情報からは隔離されてしまう。
- その結果、自身の考え方や価値観の「バブル（泡）」の中に孤立するという情報環境を指す。

自分が好む意見、興味のある内容「だけ」に囲まれていく

判断するために十分な情報を持っていない可能性がある、 ということが分からないことが問題

- エコーチェンバー現象やフィルターバブル現象のなかでは、**自分の意見や考えとは異なるものや、それに対する批判などから遠ざかってしまいます。**
- また、**フェイクニュース**（誤った情報や意図的にだまそうとして発信される情報）が混ざっていても**確かめるための情報を得ることができません。**

こうした情報環境のなかで得られた情報のみで判断するという
ことは、良いもの、悪いものを十分に比較・検証したあとで、
行動を選択しているとはいいがたいと考えられます。